



## アフリカの能力構築：数字の裏にあるもの



カルラ・グラッソ

2016年4月7日

全てのエコノミストが合意できることがひとつあるとしたら、それは数字の重要性です。良いデータがなければ、経済のパフォーマンスを評価することも、生活の向上につながる賢明な政策を策定することも困難です。

20年ほどの間に、アフリカ南部の国モザンビークは、国民経済計算も消費者物価指数もないところから、サブサハラアフリカで最も進んだ統計機関を設置するまでになりました。

私はモザンビークのデータ集計の発展を、先のアフリカ旅行の際に自ら目にすることができました。IMF代表としてのはじめてのアフリカ訪問でした。私は、当時モザンビーク統計局長を務めていたイサルティナ・ルーカス氏（現在は経済財務副大臣）と会う機会がありました。同氏から、主要な経済統計の集計でのモザンビーク政府の目覚ましい前進—IMFの貢献も背景にあります—について話を聞くことができました。

3月のはじめのこの10日間の訪問を通し、私はIMFの技術支援と研修—我々はこれを合わせて「能力開発」と呼んでいます—がどのように、サブサハラアフリカの経済の未来を担う政策担当者を支えているか、より多くの例を見ることができました。

### 仲間の経験を糧に

たとえばタンザニアでは、IMFと同国中央銀行が共同で開催したワークショップを見学することができました。ここでは、域内の行政官が、金融へのアクセスの拡大をめぐる母国の経験を述べ結果として発生している金融の脆弱性にどのように対処すべきかについて意見を交換しました。参加者の多くが、ピアラーニングとして知られるこうした経験の共有が、能力開発において重要だと強調していました。

正式なコース以外での知識の共有が能力開発に重要だという声を良く聞くようになりました。ですから我々は、直接そしてオンラインでのピアラーニングやサポートを促す方法を調査しています。こうしたプラットフォームを通し、同じような課題を抱える政策担当者が、相互に学習するだけでなく共通の政策目標を打ち立てることもできます。

こうした努力が実を結びつつあります。たとえばセネガルは、ピアラーニングを効果的に使い、今後20年間で新興市場国の仲間入りをするという目標を定めた新たな開発戦略の導入に取り組んでいます。同国は、納税者識別番号の導入、信用情報機関の

設置、そして観光と経済特区の開発で、カーボヴェルデ、モーリシャス、セーシェルの経験を生かしています。

## 実践的な学習

また、私は、能力開発が、現在進められている加盟国との対話で極めて重要な位置を占めているということを経験しました。IMFが、経済の定期モニタリングで特定の助言を行う際、政策助言を提供したり或いはテクニカルな報告書を残すだけでは十分ではありません。我々は、その助言を実行するための実践的なツールを提供するため行政官と直接協力する必要があります。

たとえば、課税ベースの拡大やより生産的な支出を実現するための方法について助言する際、我々のカンントリーチームと財政の専門家が密に協力します。我々は、専門的知識を容易にIMF全体で共有できるようにするため、知識管理システムの強化に取り組んでいる最中です。

能力開発は、どこでも同じ公式を使うわけではありません。これは国のニーズに合わせて開発戦略に組み込まなければなりません。世界の他の地域と同様、アフリカで、我々は各国の経済の実情を能力開発の基盤とします。これは、IMFが[地域センター](#)を通し実際に現場に拠点を有していると、容易に進みます。

たとえば、モーリシャスにある[アフリカ地域研修所](#)で、私はアフリカの通貨統合の未来に関する地域会議に参加しました。このトピックは、同地域が、[東アフリカ](#)通貨同盟の設立など、通貨統合深化のための計画をたてるなかで、極めて重要になっています。

国の状況に合わせることに加え、能力開発は、世界経済の状況の変化に合わせて調整することが重要です。2014年、IMFは「[立ち上がるアフリカ](#)」というテーマで[モザンビーク](#)で重要な会議を共催しました。その際、我々は、多くのアフリカ諸国が天然資源に恵まれている一方で、この恵みは容易に呪いになり得ると評価しました。ですから、我々は、現在のそして未来の世代の利益となるよう、天然資源による歳入を管理するための強力な財政政策組みの導入で、各国政府と協力しました。

あっという間に2年が過ぎ、今回私が会った政府関係者は、より強力な財政枠組みが早急に必要だとの認識を示しました。彼らは、ほとんど誰も予想していなかった原油や他の一次産品価格の下落への対応に追われています。これは、好況時も不況時も、各国が緩衝材を構築し潜在的ショックに対応するための能力を開発する必要があることを明確に示しています。

IMFは今後も能力開発の受益国のみならず、世界中の多くのパートナーと密接に協力していきます。そもそも、彼らの提供する金融支援で我々は能力開発に関する助言を提供することができるのです。

## 数字の裏の人々

IMF を代表して初のアフリカ訪問を振り返るなか、私の心に残っているものが、アフリカの皆さんの顔です。

タンザニアでは、「ワトト・ウェトゥ孤児院（スワヒリ語で「我々の子供」）」を訪問しました。私が到着すると、子供たちが私のために作った歌を歌ってくれました。政府関係者との複雑な経済政策の選択肢についての協議が全て終わった後のこの経験は、私たちの活動の真の目的を思い出させてくれました。我々が望んでいるのはこの子供たちのためのより良い生活であり、より良い未来です。能力開発はこれを実現できるように我々を支えることができるのです。



(写真 : Jackson Shelutete)

\*\*\*\*\*

**カルラ・グラッツ**：ブラジルとイタリアの二重国籍を所持。2015年2月2日、IMF 副専務理事兼首席管理官（CAO）に就任。

職務は IMF のすべての行政事務を監督、その予算、人事、技術、一般サービス、内部監査の各業務の調整、連携を図る。IMF 組織全体としての有効性に不可欠な、これら業務の包括的かつ効率的で有効性ある管理の確保が狙い。

前職は世界有数の鉱業会社ヴァーレで 14 年間勤務、2001 年から 2011 年の間は人事・企業サービス担当のバイス・プレジデント。この間、38 カ国で操業し 13 万 8000 人の社員を抱える同社の人事、IT、調達、通信、健康及び安全の分野での現代化努力を主導。

ヴァーレ以前は、1994 年から 1997 年までブラジルの社会保障庁長官の他、社会保障、財務、企画の各省や大統領府で顧問及び調整役といった職務を歴任。なかでも財政・税制分野に焦点を当てた社会保障改革と公的部門の資金調達ニーズ分析についての制度設計と提案に参画した。

ブラジリア大学で経済政策修士号を取得。ブラジリア・カトリック大学での国際経済金融分野、及び連邦地区セントロ大学での経済数学分野でそれぞれ教授を務めた。2014年にはサンパウロの教育調査研究所（インスペール）でビジネス教育担当教授。